

# 甲子園

選手みんなが

燃えあがる



茨谷 桃香

# キャンプ場

テントをはって

すいかわり

木村 優太



# かたつむり

ゆったりゆったり

歩いている

三頼 詩月



# 風りんか

ゆらゆらゆれる

夏の風

岡田 紗侖



# ひまわりが

太陽を見て

笑ってる



川原 こどみ

## 香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」第40号 2020.7.13(月)

### 夏のさかり



教科書には、季節を表す二十四節気を書いてあり、夏は、「立夏」「小満」「芒種」「夏至」「小暑」「大暑」と、五月の初めから、七月の終わりにかけての季節を表す言葉がのつています。なじみのあるのは「夏至」ぐらいで、他の言葉は大人でも知らない人が多いでしょう。また、五月と言ったら春だし、八月は夏だと思つのですが、昔の人の感覚と今とでは違うのでしよう。みんなに夏の俳句を作ってもらいました。

### みんなの作品から



- 梅雨の時期雨で心が落ち着ける (堀川)
- かたつむりゆったりゆったり歩いている (三瀬)
- 梅雨入りに紫陽花の葉にかたつむり (土家)
- 生き生きとシャワーを浴びた紫陽花達(澤田)
- 母の日にカーネーションをプレゼント (久保)
- 梅雨が来て紫陽花開き花の道 (藤岡)
- 夏休み毎日遊ぶと真っ黒け (塚本)
- 太陽がキラキラ燃える大暑かな (戸川)
- ひまわりが太陽向いて整列中 (井阪)
- ひまわりが太陽を見て笑ってる (川原)

- ひまわりを家族みんなで見に行こう (岩本)
- キャンプ場テントをはってスイカ割り (木村)
- スイカ割り包丁切って皿の上 (奥谷)
- 家の前セミがふかする場所がある (中岡)
- 森の中ミンミン鳴いているセミたちが (西野)
- 海開きざぶんと波のせまる音 (下田)
- 海の夜クラゲが光ってきれいだな (岩本)
- 冷え冷えの頭がおるかき氷 (佐藤)
- 暑い日にソフトクリームたまらない (喜次)
- 暑い夏アイスを食べて復活し (磯田)
- クーラーがききすぎて手が赤くなる (菅野)
- 風りんかゆらゆらゆれる夏の風 (岡田)
- 夏の夜きれいな夜空見上げて (高山)
- 祭りの日夜空にきれいな花が咲く (井上)
- 夏祭り最後の夜に花火見る (倉谷)
- 八百屋にてすいかの香せり夏が来る (佐藤)
- りんごあめしゃくりとかじり満足気 (八田)
- 甲子園カキンと音が飛び回る (酒井)
- 甲子園選手みんなが燃え上がる (渋谷)
- 甲子園バットの音が鳴りひびく (安川)
- プロ野球悲しそうだな無観客 (谷口)
- サッカーで使ったタオル汗まみれ (大武)
- スライダーうきわ流れてさようなら (上田)

# みんなの日記から



□「警報」

谷口剛琉

ぼくは、火曜日の夜中に、すごい音がしていたので起きました。なぜなら、大雨が降っていたからです。

そして、朝になっても雨が降っていました。お母さんが、

「今日、警報らしい。」

と言っていました。警報は奈良県にはあまり来ないので、その時は、びつくりしました。ぼくは、(ラッキー。)

と思ったけど、もう少し勉強したかったです。家には水があふれてこなくて良かったです。

□「明日香村めぐり」

西野一翔

ぼくは、先週の日曜日(六月十九日)に明日香村へ行きました。自転車をレンタルして、飛鳥の石、古墳をたくさんまわりました。

一番印象に残っているものが、石舞台古墳です。なぜなら、日本一大きな石室だと勉強で学んだから、より楽しめました。写真だけでもすごそうだとわかっていたけど、実際に行ってみると、より大きさをよささが分かりました。

そして、もう一つあります。それは高松塚古

墳と高松塚壁画館です。なぜなら高松塚壁画間の大きさが大きいのかと思うたら案外小さかったからです。だけど、いろいろな壁画があつてすごいなと思いました。

次の目的地に行く途中で、日本の国ちようのオオムラサキを飼育している大きなカゴがありました。大量にオオムラサキがいて、驚いたけどうれしかったです。

□「大雨警報」

佐藤郁弥

今日、ぼくは朝五時に起きました。強い風とかみなりで目がさめました。この時は、家がくずれるんじゃないと思うぐらいの強風だと感じました。

すると、そのとたん、家がちょっとゆれて、玄関もガチャガチャとゆれ出してきました。この時は、もう本当にこわかったです。

そして、後から警報が出てきました。発令時は、学校が休みになると思ってうれしかったけど、雨も強風もひどくなくなってきた、今となつたら、特別警報が出なくてよかったと思いました。

それから、雨もひどくならなく、おさまって安心して学校に行けて、うれしかったです。

【考古学のお話⑤】—日本人と犬のお話—

日本に犬が住むようになったのは縄文時代で、縄文犬もその後の弥生犬も外国からやってきた犬でした。戦国時代に鉄砲が伝わって以来、ポルトガルとの貿易がさかんになります。その中に、犬(洋犬)もふくまれていました。ポルトガルによって伝えられた犬は「唐犬」とよばれました。これまで日本にいた犬と、輸入によって外国からもたされた唐犬が混じり合って、今のほとんどの犬ができあがったと考えられています。

多くの犬は、自然に混じり合っているんな種類の犬ができたのですが、中には人の交配によってつくられた犬がありました。それは、チン(狎)という種類の犬です。「チン」とは「小さい犬」から来ており、チイサイヌチイヌチイヌチンになったようです。戦国時代にヨーロッパ人によって小型犬が日本にもたされました。大名たちは、この小さい犬を特別かわいがり、狎を飼うことは、力ある大名だと言ふことのアかしでもあったようです。昔から日本には犬を部屋の中で飼う習慣はなく、江戸時代になつても犬は外で飼われていましたが、チンだけは特別で、部屋の中で飼われていました。五代將軍徳川綱吉は特別チンを愛したようです。江戸城にチンが納められるときは、立派な乗り物に乗っていたと言います。



# みんな

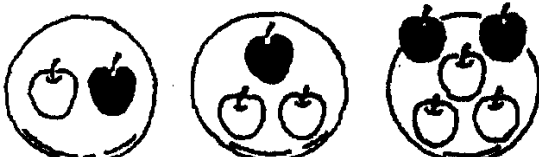
下田小学校

6年4組 学級文集

第41号 2020.7.14(火)

**A**  $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{3}{6} + \frac{2}{6} = \frac{5}{6}$

**B**  $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5}$



まちがいだとわかっていても、どうしてまちがちなのか説明できなければ本当にわかったことにはなりません。計算が速くなることも大事だけど、それ以上に算数では考え方がとても大事になってきます。

## 「さえちゃんを納得させよう」 —分数は奥が深い—

「お皿に2つのリンゴがあり、うち1つは赤いリンゴ、他の1つは黄色いリンゴです。赤いリンゴは2つのリンゴのうちの1つだから2分の1にあたります。となりのお皿には3つのリンゴがあり、うち1つが赤いリンゴですから、赤いリンゴは3分の1にあたります。今この2つのお皿を合わせて1つにします。すると全体では、5つリンゴがあるうちで赤いリンゴは2つになります。

式で表すと、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3} = \frac{2}{5}$  ということになります。このようにさえちゃんは説明しました。

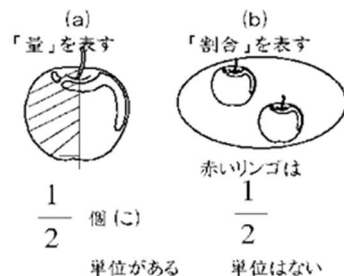
なるほど〜とつい納得してしまいそうな説明ではないでしょうか。この説明は正しいでしょうか？まちがっているならどこがまちがちなのでしょうか？

みんなに考えてもらったところ、「通分して計算したら6分の5になっているからまちがいの」とすぐ言う人がいましたが、これは何の説明にもなっていません。どうしてまちがちなのかを考えてもらったところ、「これはりんごで考えるからが悪いんだ」とか、「1つのリンゴで考えたらいい」「分数は小数で表せるから、 $0.5 + 0.333\cdots = 0.4$  にはならない」など、正解に近い意見も出されました。でも、(B)のなんともわかりやすい絵がまちがいだという説明はなかなかできませんでした。

### 分数で表される2つの場合

分数には、具体的な単位(本、人、個など)で表される「量」を示す場合(a)と、単位なしの「割合」で表す場合(b)があります。

それでは、先の問題のどこがまちがちなのでしょうか？(B)の場合、2つ分を1つと見なしてそのうちの割合を表したものと、3つ分を1と見なして、そのうちの割合を表したものとでは、もともと「1とみなしたもの」がちがっています。これは、久保さんが説明した「1の基準がころころ変わっている」と同じです。基準がちがうのに、そのまま足したり、引いたりすることはできないのです。逆に、(A)の「量」についてはそれができます。(B)の説明では、「2つのお皿を合わせて」という言葉にひっかけられて、いかにも足せるような錯覚におちいったのです。



## 授業の感想から 7/9

・分数のたし算、ひき算、かけ算、わり算の問題を解くのは簡単です。だけど、「説明してください」「間違っていることを書いてください」と言うのは、問題の答えが分かっているても、説明するのはとても難しいので、もう少しできるようにになりたいです。

(西野)

・納得できるように説明するのがとても難しかったけど、久保さんの説明がとてもわかりやすかったです。説明したことを覚えておきたいです。

(喜沢)

・私も最初は、分母と分子をそのまま足してしました。さえちゃんののように、そのまま人足す人が多いと思いますが、ちゃんと説明してあげれば、だれでも簡単にできると思います。

(土家)

・前のたえちゃんの計算よりは簡単だったけど、どう説明するのが、今日の授業でよくわかりました。でも、説明するのは慣れていないことがわかったので、何でも説明できるようにがんばりたいです。

(中岡)

・この勉強で、分数+分数の意味がわかりました。考えるのがとてもおもしろかった。さえちゃんの言っている意味は、分からなく無いけど、間違っている。私も間違えないようにしたい。

(三瀬)

## みんなの日記がっ



□「六年生になって変わったこと」藤岡味良

私は、六年生になって変わった事は二つあります。

一つ目は、本をたくさん読むようになりました。前までは、一週間に一冊ぐらいしか読んでなかったけど、最近は、一日一冊が読むようになりました。お母さんやお父さんにいろいろな本を買ってもらったりして、本棚に本が多くなってきました。だいたい本を速く読めるようになってうれしいです。マンガも読むようになりました。

二つ目は漢字を覚えられるようになりました。漢字マッキーノをして、だいたい漢字が覚えられたりしてうれしいです。これからもがんばりたいです。

これが六年生になって変わった二つのことです。

□「コロナウイルスで変わった生活」戸川翔太

ぼくは、コロナウイルスで変わった生活について不満を感じています。なぜなら、ストレスのたまるものばかりだからです。

一つ目は、マスクをつけたいいけないことです。マスクをつけると、これから暑くなるのにマスクをつけて熱中症になったり、相手の表情がやや相手の声が聞こえなくなったりするからです。ぼくは、暑いのがきらいなので、マスクをつけ

るのはいやだけど、命を守るためには必要だから仕方がないと思います。

二つ目は、ステイホームです。三密を防ぐためにしないといけません。外に出られないから、太陽の光も浴びられなくなるので、いやです。

他にもいっぱいあるけど、これからは全て自分の命を守るためにやらないといけないことばかりです。ぼくは、こんな生活がいやなので、早くワクチンを開発してもらって、コロナの入る前の生活にもどりたいたいです。

□「延羽の湯に行った」

塚本祥真

ぼくは、家族みんなで延羽の湯に行きました。少し遠かったのですが、とてもおなががいっていました。

やっと着いた時、初めに、ご飯を食べました。ぼくは、ねぎとろ丼というもののみました。とてもおいしかったです。

次に、お風呂に入りました。いろいろなお風呂があつて、おもしろかったです。とても深いお風呂や熱いお風呂、ひのきで囲まれたお風呂など様々でした。お風呂からあがつて、マンガを読み終わったのですが、

「今日は読まない。」

とお父さんに言われて、仕方なく、アイスを買いました。コーンがついているのは好きではないので、カップにしました。おいしかったです。





香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」 第42号 2020.7.15(水)

五〇m走の不思議をさがせ その④

ーあてっこペース走 ゆっくりペースー

五〇m走はスポーツテストにあるので、多くの小学校で一学期に行われます。しかし、ほとんどが記録をとって終わりという場合が多いようです。これでは、友達との速さ比べしか楽しみがなく、それで終わっていたら、本当につまらない学習でしょう。そうではなくて、自分の走りはどうなっているのかということ学習して、できていない所を直し、その結果速く走れるようになってほしいと思います。そんなことを考えて、今50m走の授業を行っています。

みんなは、これまでの学習で、多くの人が30m〜40mで速さが落ちていくということがわかりました。次の段階では、速さの落ちこみを少なくするためには、どうしたらいいのかを学習していきます。

それで、これから数時間は「あてっこペース走」を行います。「あてっこペース走」は、全力でかけっこをするのではなく、それよりおそい何段階かのスピードで走ったタイムを目標として、それに「ヒツタリ賞」で走ることをめざして走ります。目標タイムに対して、速すぎてもおそすぎても得点は低くなります。

今回は、8割走です。自分の一番速い記録を10としたときに、8の速さで走ります。

あてっこペース走(ゆっくりペース)

◎8割走の目標タイム

|| 50m走のベスト記録×1.2 || 秒

びったり↓4点

± 20.1 秒以内↓3点 3回の得点合計で

± 0.2 以内↓2点 きそいあう。

± 0.3 以内↓1点

それ以外↓0点

10のうち8の力で走るといことが、はじめは難しかったようです。半数近くの人が0点で、余りにも速く走ったり、おそく走ったりして、目標タイムに近い速さで走ることができませんでした。ただ、ゆっくりペースで走ると、みんなの走りは力がぬけて、足がのびた走りになっていました。

※今回の最高得点:井阪(8点)、渋谷、菅野、奥谷(7点)、西野、佐藤こ、戸川、下田(6点)

※びったり:渋谷、澤田、佐藤こ、上田、菅野、戸川

授業の感想から 7/10

・今日の授業で8割の力で走りました。一回目はうまく行きましたが、二回目は調子がくるって0点で、三回目もおそくなって0点でした。次はがんばりたいです。

(中岡)

・ぼくは、4点だったけど、8点の人がいたから、今度にはびったりできるように走ります。

(岩本ひ)

・今日の記録の点数は0点で、その理由はおそすぎ  
でした。これからは、もうちょっと速く走ろうと思  
います。  
(安川)

・8割という感覚がすごく難しかった。速かったから  
おそくしたら、おそすぎになって、速めたら速すぎ  
た。感覚がすごく難しいと感じた。  
(井上)

・自分の中では8割で走ったつもりが、ちょっとおそ  
かったから、もう少し速く走った方がよかったです  
う。  
(谷口)

・速さをコントロールするのが、こんなに難しいとは思  
っていませんでした。最初よりかは後の方が誤差  
が減りましたが、それでもまだ誤差があったので、  
何回やったら目標タイムになるのかなと疑問に思  
いました。  
(八田)

・最後までめちやずれたから、今度は全部ぴった  
りにしたい。そのために走りコントロールできるよ  
うにしたい。ぴったりを二回も出せてうれしかった。  
(井阪)

・今日は自分ではまあまあできたと思うけど、まだ  
少しずれがありました。次回は8点を目指したいで  
す。  
(西野)

・いつも全力で走っているタイムよりおそく走るこ  
とが難しかった。一回だけぴったりだったけど、それ  
以外はタイムがおそかったから、次からは、走る速  
さを調整していきたい。  
(渋谷)

・3点でとてもくやしかったけど、楽しかったから、  
もう一回したいです。次は三点よりも上の得点を  
目指したいです。  
(土家)

## みんなの日記から



□「妹が作ってくれたピザ」 三瀬詩月

私は、七月七日に特別おやつを食べました。そ  
れは、妹が幼稚園で収穫してきたピーマンで、妹  
が作ったおやつのはピザです。材料はトルティーヤ  
を生地にして、ケチャップをぬり、ピーマンとシー  
チキンとチーズをトッピングして、焼いて作って  
くれたものです。私が帰ってくる前にしてしてく  
れて、家に帰ると、とてもいい香りでした。そして、  
みんなでピザを食べました。とっても美味しく出  
来上がっていて、ピーマンはとても甘かったです。  
おいしかったので、  
「おいしいから、また作ってね。」  
と妹にいました。

そして、次の日も、またピザを作ってくれてい  
ました。とてもおいしかったし、うれしかったです。  
また作ってほしいです。

□「九州豪雨」 高山空

ぼくは、最近ニュースを見ていて、あることに気  
づきました。そのニュースでは、九州北部地方を  
中心に豪雨が降ったと伝えられていました。気象  
庁は、福岡、佐賀、長崎の三県の一部自治体へ、  
「大雨特別警報」を出しました。大分県日田市で  
は、筑後川が氾濫しました。

熊本県、大分県のダムでは、基準水位をこえ警

報も出たそうです。熊本県では、なんと五十一人  
死亡、行方不明十一人といった深刻な状況でした。  
これを聞いていて、洪水や雨の恐ろしさがとて  
も分かりました。これからは、強い日の雨は、絶対  
に川に近づかないようにしようと思いました。

□「身近にある計算の記号」 堀川太陽

日記で書くことがなかったぼくは、算数記号を  
見て、少し疑問に思い、調べることにしました。

現在使われている一般的な記号は、それほど  
古くなく、ほぼ十七世紀までにヨーロッパで定着  
したそうです。日本には、明治以降一般に使われ  
て広まったらしいです。

十と一の記号は、船乗りが、たるの水を使った  
時に、使った量を「一」と、たるに横線を引き、な  
くなった水を補充し、満タンになったらその印と  
して、横線の上から、縦に線を引いて、横線を消し  
たのが「十」と「一」の起源とされています。

＋(プラス)は、ラテン語の et を単純化したも  
ので、－(マイナス)は、minus の頭文字 m の筆記  
体から生まれたとされています。(et ↓ e ↓ +、  
m ↓ ~ ↓ -)とされています。

「=」は、英国のロバート・レコードが、智恵の  
砥石で、「二本の平行線ほど世の中に等しいもの  
は存在しない」といったことが始まりだったそう  
です。

身近な計算の記号には、いろんなことがつま  
っていることを知ってすごくびっくりしました。



香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」第43号 2020.7.16(木)

◎難度表 <>は跳び箱の向き ○は段数

9.8	・閉脚跳び<縦>⑥				
9.7	〃 ⑤				
9.6	〃 ④	・閉脚跳び<横>⑥・閉脚(水平)跳び<縦>⑥			
9.5	〃 ⑤	〃 ④	・反転系縦跳越<横>⑥・閉脚(水平)跳び<横>⑥		
9.4			〃 ⑤	・反転系横跳越<横>⑥・回転系横跳越⑥	
9.3			〃 ④	〃 ⑤	・またぎ越<縦>⑥
9.2				〃 ④	〃 ⑤
9.1					〃 ④
9.0					〃 ④

跳び箱の授業その④ー演技を採点ー

跳び箱の授業では、最後の時間に発表会を行います。これまで学習してきた技から、一つ選び、みんなの前で発表してもらいます。

これまで、「反転系(回転系)横跳びこし」↓「反転系縦跳びこし」↓「閉脚跳び」↓「開脚跳び」と、いくつかの跳び方を行ってきました。その中から一つ選ぶのですが、技によって難しさがちがいます。それで、左の表のように、難度表を用意しました。一番難しい技を6段の閉脚跳びへ縦Vとしています。できるだけ持ち点の高い技を選ぶ方が良いに決まっているので、発表会では、自分のできる難しい技で演技してほしいです。

また、友達の演技を採点することにも挑戦します。持ち点から、着地の減点、演技の加点など、いくつかの基準で演技に採点をします。跳び箱は、しゅん間に終わってしまうので、しっかり見ていなければなりません。演技に点数をつけることにも慣れてほしいと思います。

授業の感想から

7/13



今日は、演技を採点するというのをやりました。初めに練習をして、自分の跳べる技をやりました。横6段の閉脚跳びをしていたら、先生に「縦でやってみなさい」と言われて、今度は縦6段でやりました。やったら、ぎりぎりできました。ですが、縦はこわいので横6段に変えました。(中岡)

開脚跳びで、遠くに跳ぼうと思ったけど、余り跳べなかった。着地の時に体が不安定になるので、足に力を入れようと思う。(安川)

まだ完べきじゃないけど、次の体育の時は、しっかり足を上げて、着地をちゃんとできるようにがんばりたいです。(土家)

目標より0.05下がったけど、次の閉脚跳びでは、減点なしで跳びたい。むしろそれ以上で跳びたい。(佐藤)

しっかりと演技を見ていないと、採点するのは難しいことが分かった。私が発表した技は、反転系横跳びこしの4段だけど、きれいに跳べたと思う。(川原)

ぼくは、反転系横跳びこしをしたいと思っています。今までやった中で一番得意なので、それをやった方がいいと思います。でも、みんなの前でやるのははずかしいです。(上田)

反転系横跳びこしは、持ち点は低いけど、加点があるので、きれいに跳べるようになりたいです。(下田)



□「天国までの四十九日間」 八田菜愛

私は、この前お姉ちゃんに『天国までの四十九日間』と言う本を借りました。

その本の内容は、ある女の子がいじめられていて、いじめてきた女の子たちの人生をめちゃくちゃにするために自殺します。ですが、風で遺書が飛ばされてしまい、いじめてきた女の子たちには何も起こらず、自殺は無意味になってしまいます。家族の所へ行くと、だれ一人悲しんでおらず、女の子は途方に暮れています。そこから、幽霊が見える同じクラスだった男の子に出会い、いろんなことが起こると言うお話です。

この本を読んだとき、今生きている事についてなど、考えさせられたり、読んでいて泣きそうになったりする部分もありました。とても良い話だと思ったし、もっとうこういう本に出会えたらいいと思います。

□「クラブができるまで」 澤田ひなた

私は今ごろ、毎日金管の練習していたはずでした。

毎年、新学期が始まってすぐに活動が始まっていたけど、今年はコロナのせいで、一学期間のクラブがなくなると知って、とっってもショックでした。六年生で、最後の学校生活のクラブ

がなくなると、それに、三年間金管クラブを続けていたからこそ、よけいにくやしいです。

でも、今はコロナの感染者を増やさないと大切だと私は思います。コロナの感染者を増やさないと、クラブができる環境につながるのはないかと思っています。二学期からクラブができるように、コロナの感染者を増やさないと、油断せずがんばりたいです。

□「空手」

磯田大雅

ぼくは、空手を習っています。練習では、いっただいたい初めに、基本けいこをします。それは、基本の技を、十回ずつ気合を入れて、「えい！」と言いながらします。毎日ぜったいにします。

その後は、ミット打ちをします。先生の言った技をするのですが、小さ目のミットを先生がお腹につけて、そこをついたりけつたりします。パンチ二回とけり一回というふうにします。

それから、組み手があります。これは、ぼくが一番好きです。生身では危ないので、サポーターをつけてします。ルールは、金的(金玉)と顔以外なら、どこをついてもいいのです。顔にパンチは反則ですが、けりなら良いのです。そのためには、足が自分の顔より上がらないといけません。なので、じゅうなん体操もします。だいたいこのようないこをやっています。

連載「先生が小さかったころ」(152)

「蚊帳(かや)」

大阪の夜はむし暑く、ね苦しい夜が続きまし  
た。おまけに、ねていると蚊の羽音がブンブン聞こ  
え、顔のあたりを回っているのがわかります。ひ  
どいときには、足の裏をかまれ、腹が立つほどか  
ゆくて、ねむたいのにねむれません。蚊が多いとい  
うのも、それなりの理由がありました。先生の家  
は団地の一階にあり、窓のすぐそばには、ニメー  
トルほどの小さな木が植えられていました。夕方  
になると、蚊などの虫が群がって飛んでいます。窓  
を少しでも開けていると、その夜は決まって蚊に  
悩まされるのでした。

たいていの夜は、せん風機の後ろで、蚊取り線  
香をたいてねるのですが、少しばかりすずしい夜  
には、部屋に蚊帳をつってねました。蚊帳とは、蚊  
から身をまもるために、部屋やの中にはるテント  
のようなものです。部屋の四すみには、大きなく  
ぎが打ちつけてあり、ふとんをしいてから、この  
くぎに蚊帳をつります。そして、ねるわけです  
が、蚊帳に入るときが大変でした。ゆっくり入っ  
ていたら、蚊も一緒に入ってしまうので、蚊帳の  
下の部分をまくって、「一、二、三」のリズムでさっ  
と入るように言われたものでした。

蚊帳の中は、何か別の世界のように、蚊取り線  
香のけむりのくささもなく、もちろん、蚊になや  
まされることもなく、安心してねむれたのです。  
ところが、たまに、蚊帳の中を蚊が飛んでいるこ  
とがあつたり、うでが蚊帳にふれていると、蚊帳の  
外から蚊にかまれたりすることもありました。  
もう今では、蚊帳もつることはありませんが、  
なかなかねむれない夜などは、大阪の暑かった夜  
と共に、蚊帳でねたことが思い出されるのです。





香芝市立下田小学校 6年4組 学級文集「みんなで」第44号 2020.7.17(金)

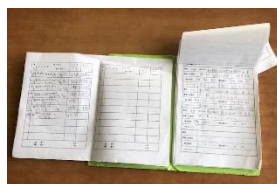
## 読書貯金

ー貯金をためよう

ーページ一円ー

四年の時も、五年の時も、  
一ページ一円としてためる読  
書貯金をしてきました。もう  
すでに一万円以上もためた

三瀬さんの読書貯金



人もいます。図書室の本と、学級文庫の本、家  
にある本でも構いません。いろんな本を一所  
けん命読んでほしいなと思います。本を読ん  
だら、一ページ一円として、貯金していきます  
が、学習マンガなど、本によっては二ページ一円  
というのもあります。朝読の時間や、早く課題  
が終わったちよつとした時間を利用して、たく  
さん本を読んでほしいです。「読書は、ページ  
数じゃないよ。どんな本を読んだのかという中  
身です。中身」という意見もあります。

：なるほど、確かにそうとも言えます。でも、  
それは、本をたくさん読んでいる人が言える  
ことだと思います。まずは、いろんな本に出会  
うことが大切でしょう。本には、あたりハズレ  
が多くて、感動できる本には、なかなか出会え  
ません。そのためにも、多くの本にあたってみ  
ることです。先生も、学級文庫の本をもっとそ  
ろえていきたいと思っています。

## みんなの日記から

□「お父さんの仕事」

岩本響



いつも、ぼくのお父さんは、朝早くから仕事  
に行つて、夜に帰ってきます。お父さんはつかれ  
ています。

ぼくのお父さん仕事は大工さんです。ぼく  
は、三回ぐらいお父さんの仕事場に行つてお手  
伝いをしたことがあります。その時は、機械で  
木にくぎをうつ仕事を手伝えました。力のいる  
仕事なので、ぼくは家に帰ったら、もうすぐく  
つかれていました。この仕事を、毎日している  
と思うと、もう気が遠くなつてきそうです。

お父さんは家に帰ってから、お風呂に入つて  
ゲームをします。お父さんはVRを買ったので、  
戦とうのゲームにはまっています。ぼくは、とて  
も楽しそうだなあといつも思います。

お父さんは、たまに日曜日が休みです。休み  
の時は、一緒に遊んでくれます。お父さんはぼ  
くとゲームもしてくれます。ぼくもVRのゲー  
ムをします。

ぼくは、お父さんにこれらも仕事をがんばら  
せてほしいと思います。いつもがんばってくれてい  
るので尊敬しています。

□「とび箱」

奥谷綾乃

前の体育の時間に、とび箱をしました。私ができるとび方は、開きやくとびと、回転横とびこしです。できないとび方は、閉きやくとびです。

グループの人に補助をしてもらいながら、閉きやくとびは、前よりも上手になっていました。感覚がつかめないの、先生に教えてもらいながらやっている、やっとなかめてきました。閉きやくとびは、足を手よりも上げる技です。でも、なかなか自分の思い通りには全くならぬので、とてもくやしかったです。

開きやくとびは、ふつうにとび箱をまたぐ技です。これはできるのに、なぜ閉きやくとびができないのか不思議です。

もうすぐ、とび箱の発表会があるので、自分の実力を発きてきよう、意識して取り組んでいきたいです。

□「私のオススメの本」

土家璃子

私がオススメする本は、「絶対絶命ゲーム 一億円争奪サバイバル」です。

この本の内容は、ゲームに勝ったら一億円ももらえるという話です。そのゲームは、毒の入っていないメニューを選んだり、クマ、トラ、ゴリ

ラの好物を選んで渡したりするゲームです。一つでもまちがえてしまえば、脱落者になり、殺されてしまいます。しかも、勝者はただ一人です。とてもハラハラしてこわいけど、おもしろいので、ぜひ読んでみてください。

□「バスケットボール」

菅野日和

私は、土曜日に、お父さんと弟とでバスケットボールを買いに行きました。

色々なバスケットボールがあつて、どれにしようか考えていると、お父さんが、「これいいんじゃない。」

と聞いてきたので、少し大きいカラフルなボールを買ってもらいました。お父さんは、「日和にお金使いすぎたわ。」

と言ったので、

(大人になったら恩返ししよう。)

と思いました。

家に帰って、ドリブルの練習や、2対2のバトルをしました。私は、負けず嫌いなので、絶対勝とうと思いましたが、ギリギリ一点差で負けてしまいました。とてもくやしかったです。次は、必ず勝ちたいです。

いっぱい練習して、中学では、バスケットボール部に入って、試合などで勝ちたいです。

連載「先生が小さかったころ」(154)  
「宿題」

宿題は、今は一日に三つ、多いときは四つか五つ出しています。先生はそんなに多く宿題を出しているとは思いませんが、やってこない人は、いつものようにやってきません。「たかが三つぐらいの宿題ができないのか？あまいぞー」と言いたくなります。

先生の小学校のころは、毎日いやになるほど多くの宿題を出されたものです。毎日、百字と言って、習った漢字を百個書いてくる宿題が必ずありました。二百字帳とかいうのもあつて、二百字を書いてくることもありました。(手が痛くなるほど字を書かされたイヤな思い出があるので、先生はマッキーノをやっています。)そして、毎日の日記、算数のドリル。一日五個ぐらいの宿題があつたと思います。

宿題の中でも一番心に残った宿題は、六年生の社会で、歴史の年表を作ったことでした。夏休みに出されたものだったけど、なかなかできず、とても苦労したのを思い出します。完成した年表は長い長い巻物になっていました。

今の宿題からすれば、はるかに多い宿題でした。それに、先生から出される宿題は、ほとんどの人がやってきていたと思います。でも、今は昔とちがいで、習い事もたくさんあるし、その宿題も学校とは別にあるのでしよう。わからないこともないので、たった三つの宿題ぐらいいきっちりやってきてほしいものです。

宿題は、多くの場合、その日に学習したことを復習する意味で出しています。また、宿題から、だれがどこまでやっているのかとか、わかっているのかとか、先生は、みんなの勉強のでき具合を知ることできます。先生のためでもあると思つて、きっちりやってきてください。